

特集 まるごと絵本

絵本て何？

vol.1

今月の絵本

14匹のあさごはん

さく・え

いわむらかずお

童心社

あめのひのおるすばん

さく・え

いわさきちひろ

至光社

文
松本 猛

ちひろ美術館常任顧問
美術評論家・作家

著書「いわさきちひろ 子どもへの愛に生きて」
（講談社）、「戦火のなかの子どもたち」物語
（岩崎書店）、「安曇野ちひろ美術館をつくった
わけ」（新日本出版社）など。



ほたるぶくろが かぜに ゆれても、すてきな ぼうしを かぶったの だれ？

「アニメーションが飛行機なら、絵本は歩き」。私は絵本について話をするとき、こんなたとえを使います。飛行機は一度離陸すると遠くの目的地まで速く行くことができます。窓から外を見ていると、地球って丸いんだなと感じたり、地図で知っている海岸線の地形が次々に見えてきたり、山が間近に見えたり、飛行機でしか見られない魅力的な景色が展開します。でも、どこかに寄ってみたいとか、もつと長く富士山を見ていたいと思ってもかかないません。一方、歩いて目的地まで行くときは、道ばたにきれいな花が咲いていれば立ち止まって眺めることも香りがかぐこともできます。友だちに出会えばおしゃべりをしたり、寄り道をしたりすることもできます。

その世界に引き込まれて、登場人物の気持ちと自分の気持ちを重ねながら、ドキドキしたり、悲しかったり、うれしかったりします。見終わって感動することも、美しいシーンが記憶に残ることもあります。でも、その場面を止めて眺めることはできません。

では、絵本はどうでしょう。絵本の時間は読者が決めるのです。好きな場面があればずっと眺めていてもいいし、前の場面をもう一度見たければページを戻すこともできます。絵本の絵は動きませんから、細かな部分を、時間をかけて見ることが出来ます。

みなさんがよく知っていて、子どもたちも大好きな絵本に、いわむらかずおさんの「14匹のあさごはん」（童心社）があります。木の根元に住む野ネズミたちの大家族の心温まる話です。は、いろいろな季節の自然図鑑でもあります。

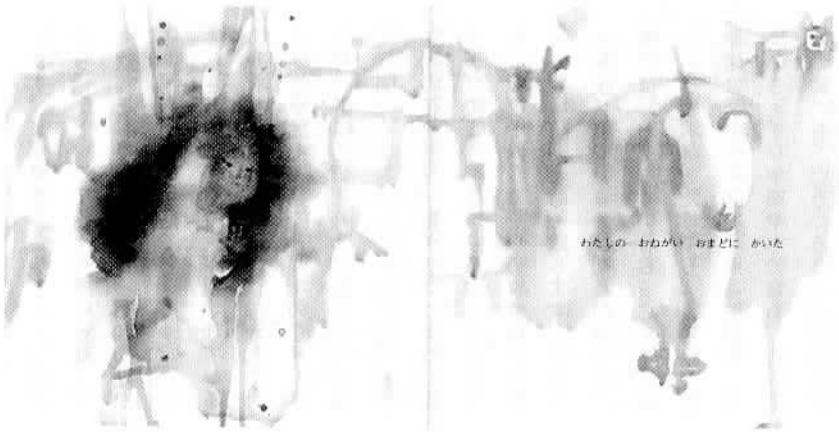
が、よく見るといろいろなことがわかります。まず時代はいつでしょう。川から樋（とい）で水を引き、かまどで煮炊きをしていますから、昭和初期から中期の田舎の生活でしょうか。いわむらさんの子ども時代が重なっているのかもしれない。季節は描かれている植物や昆虫を見ると関東の6月から7月。野イチゴを摘んで帰ってくる場面（図）ではホタルブクロとオカトラノオの花があり、野イチゴはナワシロイチゴのようです。別のページを見ても、カブトムシやクワガタやほかの昆虫の登場時期とも一致します。ネズミの家族が着ているのは初夏の服です。場所は、おそらくいわむらさんが住んでいる栃木県あたりでしょう。絵のなかには季節も時間も場所も気温も、小鳥のさえずりや風や水の音も、食べものの匂いも、いろいろなものが詰まっています。この14匹の絵本シリーズ

次に、いわさきちひろの「あめのひのおるすばん」（至光社）を見てみましょう。この絵本はひとりでお留守番をしている少女の話です。お母さんはすぐ帰るといつて出かけたのになかなか帰ってきません。あたりはだんだん暗くなり、家々には明かりが灯り始まります。少女は「おかあさん は・や・く」と心の中で祈ります。次の場面（図）で少女は不安な気持ちを抱えながら、雨で曇った窓ガラスにひたすら絵を描きます。右ページには「わたしの おねがい おまどに かいた」という言葉が書かれています。その文字に重なって、窓ガラスに描かれているのは傘をさした女の人です。きつと、お母さんの姿でしょう。窓ガラスに描かれた絵は水滴となって下に流れ、少

女の後ろには青や紫やわずかな緑や赤など複雑な色のにじみが広がっています。少女の気持ちに思いを寄せてこの絵を見ると、流れ落ちる水滴は少女の眼にあふれそうな涙のようでもあり、少女の後ろに広がる色のにじみは小さな心のなかの葛藤を表しているようにも見えます。

人間は五感を通してさまざまな情報を得ますが、その中で視覚から入る情報は80%以上とも言われます。アニメーションのように動く絵ではなく静止画をゆっくり見ると、そこからはたくさん発見があります。絵本を本当に楽しむためには絵を読めるようになることが大切です。

実は、絵画と絵本は深いつながりがあります。教会に飾られている絵も、ギリシャ神話の絵も、仏教美術も、歴史画も19世紀ころまでのほとんどの絵



わたしの おわがが おまどに かいた

の背後にはたくさんのお話が詰まっています。日本の絵巻物は中世の絵本でした。江戸時代の絵本は大人も子どもも楽しむメディアの中心でした。

現代の絵本では、子どもが理解しやすい生活を描きながら、歴史や自然、生と死・老い、貧困・差別、人権・ジェンダー、戦争と平和から原発まであらゆるテーマが語られています。大人も楽しめる芸術作品として、深く心に語りかける作品もたくさんあります。子どもが絵本を読んで楽しみながら、いろいろなことを感じ、学ぶためにも実は子どもに絵本を届ける人が、絵本のことをよく知ることが大切です。今回の連載を通して、絵本の魅力をもっともっと深く知っていただければ幸いです。保育者一人一人が、絵本を楽しめなければ、子どもに絵本の魅力を伝えることもできません。